

# 日本学校教育相談学会

*The Japanese Association of School Counseling and Guidance*

## 会報

# JASC

## 第58号

- 1◎巻頭言
- 2◎第31回全国大会のご案内//研修委員会
- 3◎研修委員会//学会誌作成委員会//調査研究委員会
- 4◎認定委員会//広報委員会//ガイダンスカウンセラー関連情報
- 5◎先輩に聞く
- 6◎【宮崎県支部】一支部活動報告一
- 7◎第29回中央研修会報告//災害被災者支援委員会報告
- 8◎会長コーナー//事務局より//編集後記

### 巻頭言

#### 私と教育相談

私は、2004年に高知県支部理事、2008年より支部理事長となり現在に至るが、学会入会は2002年55歳の時と遅かった。私が「学校教育相談」に関心を持ったのは、1985年、6年間勤務していた障害児学校から全日制普通高校（当時新設2年目）に赴任し半年過ぎた頃で、問題行動を繰り返す生徒、逆に無気力な生徒、小学校入試・中学校入試で失敗をして本校に不本意入学しそのことで悩んでいる生徒、家庭の課題を背負って悩んでいる生徒、教員との言葉の行き違いで不満を抱え込み悩む生徒等々、1年生担任として本当に多様な生徒たちと出会い、悪戦苦闘の毎日を送っていた。その中で、生徒指導の経験や生徒会活動等自主活動の経験や、障害児教育での子どもの発達論を土台にした実践等々私がこれまで研修・実践してきた生徒指導・生徒理解では不十分だと考える生徒（複数）にも出会うこととなり、多いに悩みながらの実践となる。夜10時頃の家訪問も繰り返し、気になる生徒との面談や保護者との連携も大切にしていっていった。

この年に初めて「学校教育相談」の研修会に参加したと記憶する。そして、本格的に研修したいと考え県教育センターでの研修生を希望するが、その当



中国四国ブロック代表 高知県支部理事長  
岡林 登志郎

時は残念ながら実現しなかった。それが2003年突然の県教委指導主事として人事異動。主業務がスクールカウンセラー（SC）担当になる。ある日、1985年当時取り組んだ「不登校を出さない」と考えて取り組んだクラス担任としての実践をSC（県スーパーバイザー）と話す機会があったが、SCから助言とともに実践を認めていただくことができ、改めて「学校教育相談」を身近に感じるようになる。

こうした経験から、クラス担任、クラブ指導者、教育相談担当等その他各校務分掌の役割を担っている先生方の日々の実践を支援する「学校教育相談」の役割が広く学校現場に広がることを願っている。

## 第31回全国大会(宮城大会)のご案内

～信頼と心の響き合いを大切に～  
宮城大会実行委員長 山下克郎

日本学校教育相談学会  
第31回総会・研究大会  
(新元号8月)を宮城支部  
が主管し宮城県仙台市で  
「宮城大会」として開催  
することになりました。  
会場は仙台駅より徒歩3  
分東北福祉大学仙台駅東  
口キャンパスで交通の便、宿泊環境も整った会場で  
す。宮城支部会員一同心より歓迎し、お迎えいたし  
ますので、多くの皆様に参加頂きますようご案内申  
し上げます。



私たち宮城支部は平成23年8月(7年前)宮城大会開催に向け準備を進めている中、東日本大震災(モーメントマグニチュード9、震度7)の地震と大津波に襲われ多くの犠牲者を伴った災害を受けました。被害の大きさから大会開催を断念せざるを得ませんでした。宮城大会を中止したことで、参加を予定されていた会員の皆様及び、本部役員の皆様にご迷惑をおかけいたしました。深くお詫び申し上げます。

また、災害復興、復旧に当たりまして、会員の皆様はじめ国民の皆様から、多大なご支援を頂戴いたしましたことに感謝申し上げます。今宮城大会では前回のリベンジであるとともに、大会を通して支援への感謝の気持ちを少しでも伝えられる場になりたいと考えています。シンポジウムの中では東北三県(岩手、福島、宮城)がこれから起こるかもしれない災害に備え、児童生徒、保護者、教職員等に教育相談的関わりの中で、何を準備しておくべきか参加者と共に考え、一定の方向性を示すことが出来る場になればと思っています。

学会員の皆様、教職を目指す学生さん、同じ志を持って活動されている方々を誘って頂き宮城の地で語り合い、学び合い研修と親睦深めましょう。8月再会できることを楽しみにしております。

会場：東北福祉大学仙台駅東口キャンパス  
(仙台駅東口から徒歩3分)

期日：2019年8月9日(金)～11日(日)

## 日程：

- 9日(金) 9:30～16:00 ワークショップ  
16:30～ 全国支部・代表者会議  
10日(土) 9:00～ 受付、開会行事・総会  
11:00～ 文部科学省講演  
11:40～ 記念講演 川島隆太  
13:30～ 大会シンポジウム・実践事例  
・研究発表・自主シンポジウム  
17:30～ 懇親会  
11日(日) 9:00～ 受付・実践事例・研究発表  
ラウンドテーブル  
13:00～ 被災地視察(支部会員案内)

発表申込締切：2019年4月14日(日)期日厳守

発表原稿締切：2019年5月12日(日)期日厳守

被災地視察：希望者(石巻・大川小学校方面)

※詳細については二次案内及び学会ホームページをご覧ください。

仙台は前日まで七夕祭り(6,7,8日)開催中です。他の東北5県も青森ねぶた、秋田竿灯、岩手よさこい、山形花笠、福島わらじ祭りが8月にあります。この機会に東北の短い夏を満喫して下さい。

(文責：宮城大会実行委員長 山下 克郎)

## 研修委員会

### 【「第20回夏季ワークショップ」及び「第8回ラウンドテーブル」について】

平成31年8月10日(土)～11日(日)に宮城県仙台市の東北福祉大学駅前キャンパスで日本学校教育相談学会「第31回研究大会(宮城大会)・総会」が行われます。研究大会に先立ち、第20回夏季ワークショップを実施致します。ワークショップは7講座を予定しています。講座名・講師の先生方、申し込み方法などは、会報添付の宮城県大会実施要項をご参照ください。また、講師の先生による講座紹介は、会報の6月号に掲載致します。全てのコースは先着順になります。昨年・一昨年とも200名前後の申し込みを頂き、半数を超える講座が早々定員に達しました。第一希望での参加を切望される方は、お早めにお申し込み下さい。申し込み状況は学会ホームページに掲載します。

また、8月11日(日)9:30～11:30には、研修委員会主催の第8回ラウンドテーブルを予定しています。テーマは「問題を抱えた保護者との連携を

考える～親の心の病や虐待、愛着や貧困への関わりを通して～」です。様々な教育臨床課題の解決には、保護者との連携と協力が欠かせません。時には保護者自身を支援する必要もあります。ラウンドテーブルでは、話題提供を受けて小中高別のテーブルで話し合います。教育現場の実例を出し合って、学び合う機会です。ふるってご参加下さい。

(文責：研修委員長 渡辺 正雄)

## 学会誌作成委員会

本年度の投稿論文は17本でした。現在、各論文の査読が終わり、掲載予定の論文の修正をしていただき、その後編集・校正を経て6月の発刊に向けて準備しているところです。また、最近は巻頭言の代わりに、過去に学会賞および小泉英二賞を受賞された先生に寄稿論文を書いていただいております。

さて、学会誌作成委員会としましては、多くの会員の方にご投稿いただき、できるだけ学会誌に掲載できるようにと考えてきております。一昨年度より、従来の投稿論文の種類を見直し、①研究論文、②実践論文、③実践報告、④資料、と③を増やしました。実践報告は学校現場の先生方の実践・事例の情報提供をしていただくことが目的で、文献研究や考察が少なくとも結構です。どうぞお気軽にご投稿いただけるようにお願いします。

また、従来通り、論文作成のワークショップを夏の大会と1月の全国研修会で継続してまいりますので、是非ご参加いただきたいと思っております。

### 支部理事長様へお願い

学会誌の投稿数を増やしたいと思っておりますので、各支部で投稿者1名の推薦を是非お願いします(掲載保証があるわけではありません)。上記③の実践報告を中心に考えておりますが、他でも結構です。推薦者があれば、委員長までメール(投稿規定に掲載)で7月末までにお知らせください。なお、投稿方法及び審査は一般会員と同様です。

(文責：学会誌作成委員長 長坂 正文)

## 調査研究委員会

「学校における被災者支援をする学校関係者への支援 ～被災してから5年以上経過して課題になっていること～」について調査研究を進めています。

前回の報告より後に、以下のところまで進めてきました。

7月：質問紙調査の回収(抽出した小中学校より返送)

7～8月：石巻市訪問(インタビュー調査)

※質問紙調査の回答で希望をした方に対してインタビュー調査を実施  
質問紙調査で得られたデータを分析ソフトに打ち込む

9～11月：調査研究委員会

・インタビュー調査で得られたデータの整理

・質問紙調査で得られたデータの分析

12～1月：調査研究委員会

・質問紙調査で得られたデータ分析をもとにした報告書の作成

・インタビュー調査で得られたデータの分析

2月：石巻市訪問(質問紙調査で分析したことを石巻市教育委員会へ報告)

7月までに質問紙調査を回収して、結果の集計に入りました。また調査解答者の中で、希望された方には、直接インタビュー調査も実施しました。(7～8月)

9月以降は、質問紙調査で得られた結果から分析をして、考察を考えていきました。そのことを2月に石巻市を訪問し、教育委員会を通して市内の学校に報告していきます。

被災して7年が経過しました。7年たった今、子ども達を支援する先生方が何に困っておられるのかが少しずつ明らかになってきました。その詳しいことは、8月の宮城県大会で報告する予定です。

(文責：調査研究委員長 木村 正男)

## 認定委員会

平成30年11月18日(日)に第5回「学校カウンセラー・ガイダンスカウンセラー実践研究会」を神戸市産業振興センター(兵庫)で開催いたしました。午前には立命館大学教授の春日井敏之先生に「学校現場に生かす対人援助の実践」という演題で講演していただき、午後は校種別で分科会を開催して実践を

話し合い、最後に会長の栗原先生の講話でまとめていただきました。参加者は40名でした。参加して下さった先生方からは、学校現場を経験されていたこともありより身近に話を聴くことができました、今実践していることを再確認できたばかりか現在の職場の在り方についても考えさせられました、等の感想が寄せられました。有意義な研究会ができたこと、参加者の皆様に感謝いたします。次回は東京で開催いたします。

#### \*「学校カウンセラー」の面接

30年度の面接は、東京会場で実施いたします。応募者は推薦を含めて24名でした。本年度は応募が少なかったのですが、多くの会員の皆様が「学校カウンセラー」の資格を取得して、学校現場で活躍していただけるよう工夫していきたいです。

#### \*学校カウンセラースーパーバイザー研究会

平成31年2月3日(日)に神戸市産業振興センター(兵庫)で第2回学校カウンセラースーパーバイザー研究会を開催します。午前中は和歌山大学教授の米澤好史先生による講演会「発達障害と愛着障害」です。午後は米澤好史先生の公開スーパービジョンを予定しています。「学校カウンセラースーパービジョン制度」をどう有効活用していくか探していきたいです。(文責 認定委員長 青木美穂子)

## 広報委員会

SNS(インターネット交流サイト)や、ネットゲームなど、自分の興味のある世界だけに閉じこもり、周囲に無関心な大人や子どもも少なくない。

SNS等を活用した教育相談活動の構築が急がれている。以下に、文科省が平成30年2月20日に施行された「SNS等を活用した相談体制の構築事業実施要領」のポイントを紹介する。

(1) SNS等を活用した即応性のある文字情報等による相談事業

SNS等を活用した即応性のある文字情報等による相談を実施するとともに、相談員の専門性を向上させるための研修、事業を効果的かつ円滑に実施するための通信ログ等の分析・研究、相談技法の開発等又は情報交換や関係機関との連絡調整等を行う連絡協議会の開催を実施する。

(2) 通報アプリ等を活用した一方向の文字情報等による相談事業

アプリ等を用いて、文字情報等による児童生徒

のいじめ等の通報や悩みの訴えを受け付け、その後、学校等に引き継ぎ、必要に応じて当該学校等において対応を行うとともに、事業を効果的かつ円滑に実施するための通信ログ等の分析・研究又は情報交換や関係機関との連絡調整等を行う連絡協議会の開催を実施する。

(3) その他必要な事業

地域の実情に応じ、その他必要な事業を実施することができる。

(文責：広報委員長 佐藤敏彦)

## ガイダンスカウンセラー関連情報

1. 2018年9月に「公認心理師」第1回の試験が実施されました。11月30日の厚労省発表では、35020人の受験者中合格者は27876人で合格率は79.6%でした。ガイダンスカウンセラーが何人合格したかは現在集計中です。ガイダンスカウンセラーの資格を持った公認心理師の今後の働きに注目しています。

2. 1月29日午前、新年の国会議員あいさつ回り(10:50-12:00 於国会議員会館)を実施しました。・参加者：中村渉外委員長、栗原副理事長、加勇田理事、根本監事、藤川委員、堀田教育カウンセラー協会理事、東事務局長

・訪問先：衆議院15人(馳浩、義家弘介、神山佐一、亀岡偉民、鰐淵洋子、村井英樹、石原宏高、城井崇、中川正春、大河原雅子、杉本和巳、笠浩史、菊田真紀子、畑野君枝、吉川元) 参議院7人(山田宏、神本美恵子、江島潔、上野通子、高階恵美子、石井浩郎、吉良よし子)

・概要：4組に分かれて、文部科学委員会理事などの事務所を回り、要望書を渡してあいさつと要望を行いました。

3. 29日午後文部科学省初等中等教育局児童生徒課面談(14:00-14:40 於文部科学省)

栗野道夫課長補佐と栗原慎二副理事長、加勇田修士理事、東事務局長が会い、今後の教育相談のあり方について話し合いました。

4. 今年も「公認心理師現任者講習会」「公認心理師学習会」「ガイダンスカウンセラー実力養成研修会」を実施します。詳しくは推進協議会のHP(<http://jsca.guide/>)

(文責：一般社団法人日本スクールカウンセリング推進協議会理事 日本学校教育相談学会名誉会員・ガイダンスカウンセラー 加勇田修士)

## 先輩に聞く

### 「私と教育相談」

山形県支部 八柳 和夫

私が教育相談に関心を持ったのは、昭和30年前半頃応用心理学会が心理技術者という概念で、他の学会に先駆けて口火を切った時だった。その時は時期尚早ということで終わったが、本学会のことを知ったのは、私が教員を退職して相談の仕事をしている時だった。この機会に私の歩みを少し振り返ってみよう。特殊（特別支援）の学級の担任を希望していたが、当時学級数が少なく初めは小学校だった。



この学校に赴任している間にした研究は、“低IQ児童のこと”だった。児童の能力が低いというよりも地域の生育環境が整備されているかどうかを検討した。

次の学校は特殊学級を新設する準備をしているところだった。いろいろあったが、一例を述べると、ある母親が父親の転任のことで来談された。単身赴任に、同意するかどうかということであった。そこでは家族を大切にするという方向で話し合った。

次は大学の附属学校で、特殊学級を新設するという学校だった。そこでは、使命として教員養成と障害児童の教育があった。ここでは、自閉性障害の特殊学級を市内に新設する仕事に関わった。個人的には大学で非常勤講師で、講義をした。分からないと言わずに、どう分かるようにしていくかということを中心に心掛けた。そこで新しく特殊の附属養護学校を作る仕事にも関わった。

次に小学校に赴任して、その後病弱の養護学校に着任した。養護・訓練の中で、自分の病気を意識するのに、相手にどう説明するかという場面で、相手に伝わるように子ども自身で考える手立を支援するようにした。その後は退職した聾学校に赴任したが、それぞれの教員が自分の責任で、自己を十分出せるように援助した。

また市教委が教育研究所を学習センターに変更するにあたり、新設するセンターの相談員になった。ここでは、この学会を紹介した下司先生に出会った。そこは新設で机も何もなく、相談の電話が来ても設置する場所がなく床の上だった。電話相談の時、専任の職員が「今の電話のように、答えをこちらか

ら言わないところがいい」と言われたので、面目をほどこした。

ここでは、大学と連携して相談と不登校の教育を行った。この児童・生徒たちは「ここが楽しい」と言い、卒業して「学習センターには行けたのに、学校には行けなかった。」と言って同窓会を作ったそうである。

その後は教育事務所で、不登校対策専門員として、年1回以上学校を回って相談技法を伝える仕事に携わった。面接の仕方・絵画療法（風景構成法）・交流分析などから学校の希望を聞いて講習をした。絵画療法では自分の抱えていた問題を鮮明にすることができた。例えば絵の表現の中で、勤務先の学校の近くに橋ができた訳が分ったり、スポーツをしていて、高い山が自分だったりということがあった。

最後は中学校のスクールカウンセラーであった。そこも相談業務の部屋と不登校生の教室が2室あった。そこには教室には行けないのに、中学3年で英検準2級をとったり（学習センターには大学院に進む児童も）いた。その生徒は受験で5教科450点以上取っていた。

相談室に3人で来て、「相談があるんだって」と言う（ピア・サポートの方法）。2人に「あなた方もいいんだよ」と言って、相談内容を聞いて、「どう思う？」と返した。それなりの答を持っていたので「そうやってごらん」と言って、2、3日して廊下で会ったので、「どうだった？」と言うと、「うまくいった」と言うので、「良かったね」で終わったということがあった。

総じて、「私と教育相談」という題を貰ったが、私の日常生活の中で出会ったいくつかの事情を述べてみた。

1つはすべての教員が特別な技術を持たなくても、その気持ちがあれば相談できるということである。大学の数学の教授が私は30分話したら、その人の能力が分ると言っていた。

2つに特別支援教育は教育相談そのものだと思う。その人がよりよく生育するのを援助していくものだと思う。

3つは、相談室はあったほうがいいが、相談できる体制・姿勢があることだと思う。

4つは資格のことである。「公認心理師」というのができたが、職業としては何らかも資格は必要だと思う。業務（仕事）としては必ずしも必要だろうか。

大事なのは、そこに何が必要とするかということ

で、理論でもなければ技術でもない。私たちは教育に携わっている。同時に児童生徒の声、生き方を聞いていきたい。

(文責：広報委員 小川 正人)

## 【宮崎県支部】一支部活動報告

教員6年目の年、父親が病で倒れた。その時に介護や治療する医師、看護師の必死の姿から、人としてあるべき姿を強く感じた。その時に「一人の人としての価値は学歴・身分・貧富・性別によるものではない。教師は一人一人の人格を大切に育てていくものだ。」「私は教育者として一人一人を大事にし、それぞれに合った取り組みをしていくことが肝要なんだ」と痛切に感じ、教育相談の学びを深め、実践した。その思いは教え子たちに伝わったのか、大人になった彼らから今でも届く年賀状には、当時の様々な出会いと感謝の言葉が書かれている。



### 1 宮崎県支部の役員

理事長	田中雄喜
事務局長	日高隆雄
会計	児玉スエ子
庶務	野津綾子
理事	高橋亮輔 緒方 静(研修担当)
監査	奥 博孝 村上保子
名誉顧問	脇坂昌宏(名誉会員)

### 2 平成30年度の研修会

【日程】：偶数月の原則第三土曜日  
13:30~14:30 SC・SS情報交換会  
15:00~17:00 研修会(会員)  
【場所】：宮日会館9階にて

#### 【研修会の内容】

○第1回研修会(4月28日 第4土曜日)

- (1)「カウンセリングいろはカルタの実践」  
会員 田中雄喜
- (2)「学会認定カウンセラー受験報告」  
SC 山元俊明  
ロール・プレイング【カウンセラー役】  
会員 松吉 康
- (3)「SCの受験報告」 会員 村上保

○第2回研修会(6月23日 第4土曜日)

- (1)「学習でつまづいている生徒へのSCとしてのアプローチ～『勉強の科学～心理学から学習を探る』(市川伸一 認知心理学者)」  
SC 日高隆雄
- (2)「イジメをも活かしながらの学級経営」  
会員 菊地一恵

○第3回研修会(8月18日(土))

- (1)「カウンセラーの外部組織との連携の在り方」 SC 斎藤容子
- (2)「携帯・スマートフォンについての問題点」  
会員 緒方 静

○第4回研修会(10月20日(土))

- (1)「色彩誘発MS SM法について」  
SC 米良栄州
- (2)「全国研究「東京大会」報告  
大会参加者 後藤徹一

○第5回研修会(12月15日(土))

- (1)「スクールカウンセラーとしての1年目の実践」 SC
- (2)「九州研修「北九州大会」報告  
大会参加者 日高隆雄

○第6回研修会(2月16日(土))

- (1)外部講師講演会  
演題「抑うつ予防」  
講師 立元真教授(宮大教職大学院)
- (2)懇親会 居心地屋「ほのぼの」

### 3 宮崎県教育委員会より委嘱を受ける

「SC、SS、日南学園SCの情報交換会」

【日程】：偶数月の原則第三土曜日

【場所】：宮日会館9階にて

【メンバー10名】

米良栄州、後藤徹一、井上由美、斎藤容子、久保真理子、日高隆雄、村上保子、中村千穂、根井政光 山元俊朗

### 4 第25回 日本学校教育相談学会 九州・沖縄地区研修会「北九州大会」

期日 : 11月17日(土)、18日(日)

会場 : 北九州市立八幡東生涯学習センター

(文責 宮崎県支部理事長 田中雄喜)

## 第29回中央研修会報告

1月12日(土)～13日(日)、国立オリンピック記念青少年総合センターで、日本学校教育相談学会第29回中央研修会を開催致しました。プレ講座・シンポジウム・コース別講座に132名の参加申し込みを得て、盛況のうちに終了致しました。プレ講座では「不登校体験」「発達障害」「LGBT」の当事者の語りを各40分ずつ2回話して頂きました。

シンポジウムに先立ち開会セレモニーが行われ、会長・研修委員長から学会動向や公認心理師関連の情報提供が行われました。研修アンケートでは「公認心理師を受験した、今年受験を考える」が半数近くあり、スクールカウンセラーの第一選択肢になる公認心理師の資格への関心の高さが分かりました。

シンポジウムは「チーム学校における教育相談コーディネーター・相談教諭の役割を考える」のテーマで、高橋あつ子本学会研修委員(早稲田大学)が趣旨説明・司会進行・指定討論を行い、「教育相談の現場」(遠藤裕子)「管理職のリーダーシップ」

(関年隆)「行政職の経験」(横張亜希子)の各視点から話題提供を頂き、約2時間半の議論を展開し、今後のチーム学校のあり方を学びました。初日の研修の後の教育相談カフェ(交流懇親会)には、プレ講座やシンポジストの先生方を交え、50名を超える先生方が学びを共有し合い、楽しく歓談致しました。

コース別講座は担当の先生のご都合で一講座が閉講となりましたが、以下の講座が実施され、研修アンケートの記載では極めて満足度が高く、充実した研修となりました。

- Aコース：「事例に学ぶ応用行動分析」  
大石幸二(立教大学)
- Cコース：「学校で活かすレジリエンス教育の実践」  
鈴木水季(郁文館夢学園)
- Dコース：「子どもの問題行動と家族療法」  
布柴靖枝(文教大学)
- Eコース：「子どもの虐待と発達の問題を考える」  
関根美知子(相模原市児童相談所)
- Fコース：「相談から医療につなぐための精神医学入門」伊藤晋二(獨協大学)
- Gコース：「論文の書き方講座～日頃の実践研究を投稿しよう～」米田薫(大阪成蹊大学)

[受講者の感想より]

- ・応用行動分析の考え方・手法を学ぶことができたので、実践にいかしていきたいと思いました。行

動の背景のアセスメントが大切だと感じました。

(Aコース)

- ・時間は長い楽しい研修でした。ブリーフセラピーや行動療法について、理論と実践の両方を学ぶことができて、有意義な研修でした。(Cコース)
- ・講師の先生の話は、たいへんわかりやすかったです。今の自分の職場での支援に必要な知識、技法を学ぶことができました。(Dコース)
- ・子どもの虐待に関して、具体的な事例をまじえて詳しくお話くださって、対応の仕方などたいへん参考になりました。(Eコース)
- ・学校現場に詳しい専門医の立場で話をしてくださり、質問にも丁寧に答えてくださってとても充実した時間となりました。(Fコース)
- ・具体的な指導で、少人数で細かいことを教えていただき、論文作成のエネルギーをいただけて良かったです。(Gコース)

[予告]第30回中央研修会は平成32年1月11日(土)～12日(日)に国立オリンピック記念青少年センターで実施致します。

(文責：研修委員長 渡辺正雄)

## 災害被災者支援委員会報告

### 『災害被災者支援のねらいと組織』

平成30年8月の総会で災害被災者支援の組織化が行われ、全国的な体制作りを踏み出しました。

ここで、改めて本学会の『災害被災者支援のねらいと組織』についてお知らせいたします。支部では1名以上の支部災害対策委員の選出をお願いいたします。

#### 1. 被災者支援のねらい

(1)本学会の特質である学校教育相談を活かした被災者支援をする。(2)被災地の学校の先生方を中心に支援をする。(3)中・長期的な支援として、校内で互いに支え合える人間関係づくりに重点を置いた支援をする。

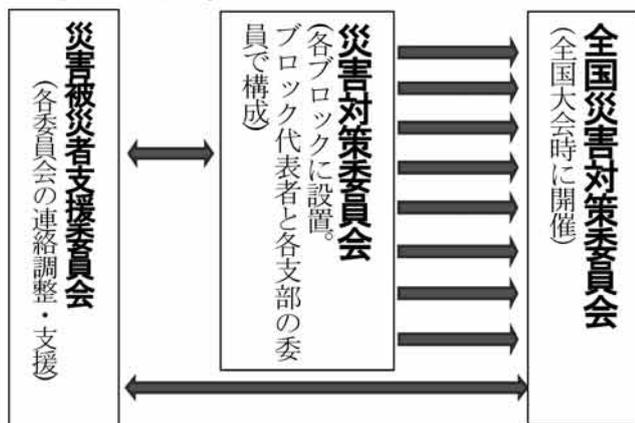
#### 2. 組織

(1)災害被災者支援委員会は各委員会の連絡調整をする。ブロック代表と協力して支援準備と支援にあたる(2)災害対策委員会はブロック毎に設置する。ブロック代表者と各支部1名以上の委員で構成する。(3)全国災害対策委員会は全国大会時に開催する。災害被災者支援委員とブロック代表者で構成する。

### 3. 災害発生時の対応

(1) 災害発生時には被災地域のブロック代表が支部災害対策委員と連絡を取り、被害状況を把握する。

(2) 被災地域のブロック代表は災害対策委員会および災害被災者支援委員会と連携して支援準備及び支援を開始する。



(文責：災害被災者支援委員 根本節子)

### 会長コーナー

スクールカウンセラー（以下、SC）制度は、学校教育相談体制を強化することが目的でした。しかし、教師としての自負やプライドからその活用を図らなかつたり、うまく連携できずに抱え込んでしまうケースが散見されます。その一方で、いじめや不登校はSCに任せればよいという考え方や、最初からSCに丸投げをしているケースもあります。

抱え込みは、三次的支援ニーズのある子どもに対しても教師だけで対応可能と考えているか、教師にも十分な心理的支援ができると考えているのかわかりません。また、丸投げは、三次的支援は教師がすべきことではない、もしくはできないと考えているのかわかりません。

三次的支援を必要とする子どもが抱えているのは心理的ニーズだけではなくあります。教育的ニーズも福祉的ニーズもあります。同様に、一次的支援においても、教育だけではなく心理的な視点や福祉的視点を取り込むことで、その支援はより豊かなものになるでしょう。

先日、「ある地区の教育相談研究会が一時期は200名を超えていたのに、今は一桁しか集まらなくなっている、別の地区の会は数年前に休眠状態に入ってそのまま再開していない」というショッキングな話を聞きました。教育相談が必要なくなってしまうのでしょうか？そんなことはありません。教育

と心理と福祉の統合を三つの水準すべてで展開していくこと、その理論的枠組を作り、実践を生み出し、発信していくことが、今こそ求められていると私は思っています。

(文責：会長 栗原 慎二)

### 事務局より

平成31年1月14日に行われた役員会で、報告・協議された概要は以下の通りです。

- 法人化に向けて、会計処理や内規を専門家と相談しながら決めていく。アルバイト・事務職員を公募する。独立採算の認定と研修委員会の会計は本部予算に組み込む。4月1日に法人設立をする。
- ブロック研修会と学校教育相談基礎講座担当支部にアンケートを実施・集約する。
- 調査研究委：追加予算を承認。
- 研修委：研修の内容や実践の発表方法、研修体制の一本化などの提言。
- 認定委：学校カウンセラーの増加対策やSVの資格等を検討。
- 小泉英二学会賞選考委：候補者推薦のお願い。
- 役員等選考委：候補者の決定次第、信任投票を3月中に実施。(文責：事務局長 梅川 康治)

### 編集後記

今回の会報58号には、宮崎県の田中雄喜先生、高知県より岡林登志郎先生、宮城県の山下克郎先生、山形県の八柳和夫先生と、日本全国から執筆原稿が寄せられました。日本中のネットワークを総動員して作る会報の素晴らしさを痛感しています。執筆された皆様へ心から感謝致します。

(文責：広報委員長 佐藤 敏彦)

日本学校教育相談学会会報	
第58号	
平成31年3月20日発行	
発行	日本学校教育相談学会 会長 栗原 慎二
編集	日本学校教育相談学会広報委員会 委員長 佐藤 敏彦
事務局	〒179-0073 東京都練馬区田柄3-11-28 日本学校教育相談学会事務局 電話/FAX 03-3926-7386 HP <a href="http://www.jascg.info/">http://www.jascg.info/</a>